

株主の皆様へ



代表取締役社長

黒田 浩史

■ごあいさつ

株主の皆様には、格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに当社第74期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年6月

■当期の概要

当連結会計年度におけるわが国の経済状況は、不安定な国際政治等、先行き不透明な状況があったものの、雇用環境が改善し、個人消費や設備投資が堅調に推移いたしました。

こうした状況下、当社グループの受注高は、半導体、液晶、ロボット、自動車、家電、工作機械等幅広い分野で高水準の状況が続き、18,984百万円（前年同期比4,850百万円、34.3%増）と大幅な増加となりました。売上高は16,117百万円（前年同期比2,856百万円、21.5%増）と受注高の増加には及ばなかったものの増収となりました。

利益面に関しては、単体の増収に加え米国及び中国を中心とした海外子会社の売上が増加したことにより、人件費等の諸経費の増加があったものの、営業利益は522百万円（前年同期比408百

万円、359.8%増）、経常利益は496百万円（前年同期比327百万円、193.2%増）と大幅な増益となりました。また、特別利益として投資有価証券売却益152百万円を計上した一方、生産ライン再編成に係る移転費用として事業構造改善費用41百万円、一部廃止商品に係るたな卸資産の処分費用として事業再編損49百万円、英国の連結子会社（Kuroda Jena Tec UK Ltd.）株式売却損30百万円及び建物整備費用として環境対策費29百万円等を特別損失として計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は252百万円（前年同期比153百万円、154.9%増）という結果となりました。

期末配当につきましては、総合的に勘案した結果、1株当たり12円50銭（株式併合前のベースでは1株当たり2円50銭）とさせて頂きました。株主の皆様には何卒ご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。

■来期の見通し

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、世界経済に不透明な要素はあるものの、基調としては引き続き好調に推移するものと予想されます。

次期の連結業績といたしましては、さらなる生産体制の増強に取組み、売上高17,600百万円、営業利益840百万円、経常利益800百万円、親会社株主に帰属する当期純利益480百万円を見込んでおります。

次期の年間配当につきましては、収益状況、経営環境を勘案し、1株当たり20円を予定しております。



■ 駆動システム

当セグメントでは、主要市場である半導体・液晶関連分野を中心にかつてない高水準な受注が継続し、受注高は10,431百万円（前年同期比4,299百万円、70.1%増）と大幅に増加しました。生産体制増強に努めた結果、受注高の増加には及ばないものの、売上高は7,572百万円（前年同期比1,749百万円、30.0%増）と増収、営業利益は738百万円（前年同期比496百万円、205.6%増）と大幅な増益となりました。

売上高 **7,572** 百万円

■ 金型システム

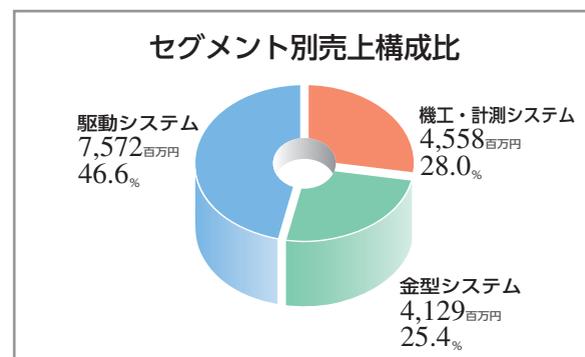
当セグメントでは、車載モーター向け受注が機種の切り替えの影響で低調であった一方、産業用モーター向け等の受注が堅調に推移し、受注高は4,007百万円（前年同期比42百万円、1.1%減）と微減となりました。売上高は、前年度受注した大型プロジェクト向けの売上の寄与等もあり4,129百万円（前年同期比496百万円、13.7%増）となりました。一方、利益面では、人件費やその他諸経費が増加したことに加え、大型プロジェクトの量産立ち上げが遅れたことや、量産プロセス開発関連コストが先行したこと等の影響から、営業損失189百万円（前年同期は営業利益25百万円）と損失計上の結果となりました。

売上高 **4,129** 百万円

■ 機工・計測システム

当セグメントでは、工作機械や要素機器の販売が好調に推移し、受注高は4,688百万円（前年同期比611百万円、15.0%増）、売上高は4,558百万円（前年同期比627百万円、16.0%増）となりました。その結果、連結子会社の減益等の影響はあったものの、営業利益14百万円（前年同期は営業損失19百万円）と黒字回復しました。

売上高 **4,558** 百万円



各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含めて表示しております。

■ 各種展示会への出展



EV・HEV駆動システム技術展の様子

昨年9月に測定計測展、10月に韓国ソウルのモーションコントロール展・米国シカゴのモーター技術展示会・ドイツシュツットガルトのMOTTEK展、11月に中国上海の工業博覧会自動化展、本年1月にはEV・HEV駆動システム技術展と、各種展示会に相次ぎ出展を行いました。このうち測定計測展では、IoT対応ハイドロリックツール（参考出品）、精密平坦度測定装置SF-640M、楕円ゲージング（連結子会社）の歯溝測定器等を出展し、当社グループの測定分野での幅広いソリューションをPRしました。韓国・中国・ドイツの展示会では駆動システム商品を中心に出品し、各国における当社グループのブランド認知度向上や市場開拓に一定の成果を挙げる事ができました。シカゴ展やEV・HEV駆動システム技術展では、モーターコアに関連した当社のソリューションを中

心とした展示を行い、世界的な自動車の電動化の動きを背景に多くのお客様にご来場頂くことができました。今後もこのような各種展示会への出展を通して、国内外における市場開拓を積極的に行って参ります。

■ メキシコ モーターコア新ライン披露式典

本年1月、当社提携先であるユーログループのメキシコ現地法人でモーターコアの量産ラインの完成披露式典が開催されました。現地政府の要人等多数の来賓をお迎えし、盛大な式典となりました。この新ラインは、当社が技術供与したGlue FASTEC®モーターコアを自動車市場向けに量産するラインで、空調を完備した新しい建屋の中に大型高速プレス機を複数台設置し、ロボットを駆使した自動ラインに加え、部品の自動倉庫や各種検査装置、そしてITによる管理システムも備えた最新鋭ラインです。この新ラインを活用して、ユーログループと共同でGlue FASTEC®のグローバル展開をこれからも一層推し進めていきたいと考えています。



披露式典の様子



量産ラインが入る新しい建屋

■ 駆動システム事業の生産体制強化

現在駆動システム事業では、歴史的な高水準の受注が続いています。当社ではこの「追い風」を受け、生産能力の増強に全力を挙げて取り組んでいるところです。増員や勤務シフトの拡大、設備の更新と増強等を通じて既に生産能力を約5割拡大しましたが、ロボットの導入等による大幅な自動化を進め、更なる増産と生産性の向上を計画中であります。お客様のご要請に一日も早く応えるため、スピード感をもって生産体制の拡充に努めて参ります。



増産体制を急ぐかずさアカデミア工場

■ 英国子会社の売却について

当社は英国子会社Kuroda Jena Tec UK Ltd. の全株式を売却しました。同社は工作機械の主軸の製造販売を主な事業としており、当社グループのコア事業とのシナジーが薄いことから売却を決定したものです。これに伴い同社は黒田精工の連結子会社ではなくなり、社名がJena Tec Precision Ltd. と変更されましたが、事業の基本的な内容に変更はなく、今後は当社グループの英国における代理店として活動して行くことになります。なお、当社が買収した旧Jena Tecグループの他の3法人については、今回の英国子会社の売却とは一切関係なく、従来どおり黒田精工グループの子会社として事業を継続して参ります。



Jena Tec Precision Ltd.

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	平成29年3月31日現在	平成30年3月31日現在
資産の部		
流 動 資 産	8,035	9,700
固 定 資 産	9,128	9,864
有 形 固 定 資 産	5,368	5,744
無 形 固 定 資 産	1,285	1,276
投 資 そ の 他 の 資 産	2,473	2,843
資 産 合 計	17,164	19,565
負債の部		
流 動 負 債	4,895	6,582
固 定 負 債	4,289	4,284
負 債 合 計	9,185	10,867
純資産の部		
株 主 資 本	6,067	6,269
資 本 金	1,875	1,875
資 本 剰 余 金	1,451	1,451
利 益 剰 余 金	2,749	2,952
自 己 株 式	△8	△9
その他の包括利益累計額	1,794	2,266
その他有価証券評価差額金	698	986
土 地 再 評 価 差 額 金	821	814
為 替 換 算 調 整 勘 定	199	405
退職給付に係る調整累計額	74	59
非支配株主持分	117	161
純 資 産 合 計	7,978	8,697
負 債 ・ 純 資 産 合 計	17,164	19,565

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日
売 上 高	13,260	16,117
売 上 原 価	10,035	11,993
売 上 総 利 益	3,224	4,123
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	3,111	3,601
営 業 利 益	113	522
営 業 外 収 益	301	226
営 業 外 費 用	245	251
経 常 利 益	169	496
特 別 利 益	0	218
特 別 損 失	15	212
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	154	502
法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税	101	263
法 人 税 等 調 整 額	△28	11
当 期 純 利 益	81	227
非支配株主に帰属する当期純利益	△17	△25
親会社株主に帰属する当期純利益	99	252

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前 期	当 期
	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	784	556
投資活動によるキャッシュ・フロー	△312	△362
財務活動によるキャッシュ・フロー	△809	375
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	20
現金及び現金同等物の増減額	△339	590
現金及び現金同等物の期首残高	2,276	1,936
現金及び現金同等物の期末残高	1,936	2,527

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期	当期
	平成29年3月31日現在	平成30年3月31日現在
資産の部		
流動資産	6,533	8,109
固定資産	9,563	10,246
有形固定資産	4,840	4,980
無形固定資産	271	232
投資その他の資産	4,451	5,033
資産合計	16,096	18,356
負債の部		
流動負債	4,404	6,164
固定負債	4,037	3,865
負債合計	8,441	10,029
純資産の部		
株主資本	6,135	6,525
資本金	1,875	1,875
資本剰余金	1,451	1,451
利益剰余金	2,817	3,207
自己株式	△7	△8
評価・換算差額等	1,520	1,801
その他有価証券評価差額金	698	986
土地再評価差額金	821	814
純資産合計	7,655	8,326
負債・純資産合計	16,096	18,356

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

損益計算書

(単位：百万円)

科目	前期	当期
	平成28年4月1日～平成29年3月31日	平成29年4月1日～平成30年3月31日
売上高	11,216	13,639
売上原価	8,702	10,481
売上総利益	2,514	3,157
販売費及び一般管理費	2,325	2,603
営業利益	188	554
営業外収益	277	223
営業外費用	211	201
経常利益	254	576
特別利益	0	154
特別損失	15	91
税引前当期純利益	239	639
法人税、住民税及び事業税	86	217
法人税等調整額	△43	△18
当期純利益	195	439

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

会社の概要

(平成30年3月31日現在)

商号 黒田精工株式会社
本店 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地16
創業 1925年(大正14年)
資本金 18億7500万円
従業員数 419名

連結対象会社の状況

(平成30年3月31日現在)

連結子会社	持分法適用関連会社
クロダインターナショナル株式会社 クロダプレジジョンングストリーズ(M) (マレーシア) 平瀬黒田精工有限公司 (中国) 永昇電子株式会社 韓国黒田精工株式会社 KURODA JENA TEC HOLDINGS LTD. (英国) Jenaer Gewindetechnik GmbH (ドイツ) KURODA JENA TEC, INC. (米国) 平瀬黒田連納泰克商貿有限公司 (中国) 株式会社ゲーシング	日本金型産業株式会社

当社グループの主要な事業

(平成30年3月31日現在)

セグメント	主要製品
駆動システム	精密研削ボールねじ、転造ボールねじ、ボールねじアクチュエータ、XYステージ、ガイド、ギア
金型システム	積層精密プレス型、精密金属プレス商品、モーターコア
機工・計測システム	保持工具、ゲージ、平面研削盤、超精密鏡面研磨装置、超精密表面形状測定装置、電子機器、コンプレッサ

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
定時株主総会 毎年6月下旬 三井住友信託銀行株式会社
基準日 毎年3月31日 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
公方法 電子公告により、当社のホームページに掲載します。 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
ただし、やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店でっております。

株式に関するお手続きについて

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
証券会社等の口座に記録された株式	
郵送物等の発送と返戻に関するご照会	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
支払期間経過後の配当金に関するご照会	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
株式事務に関する一般的なお問合せ	TEL. 0120-782-031 (フリーダイヤル)
上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

○特別口座に記録された株主様の株式に関する各種お手続きに関しましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、下記へお問合せください。

お問合せ先 0120-782-031 (フリーダイヤル)

[手続き書類のご請求方法]
・インターネットによるダウンロード <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

黒田精工株式会社

本社 / 〒212-8560 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地16
TEL / 044-555-3800 (代表) FAX / 044-555-3524
<http://www.kuroda-precision.co.jp/>

